



敬愛学園高等学校

## 私学再建への挑戦

学習基盤づくりから学力向上を目指す学校改革

ここ数年、高校改革の中でもひとときわ動きが激しいのが私立学校である。一貫教育への転換はもちろん、共学化や校名変更など、学校の根幹に関わるような大きな改革も続いている。

そんな中、今回は千葉県伝統ある私学、敬愛学園高等学校（以下、敬愛学園）取材した。首都圏でもトップクラスの混雑率で有名なJR総武線快速の停車する稲毛駅から徒歩で十分分。学校法人千葉敬愛学園グループの敬愛大学と同じ敷地内に校舎がある。

今回、同校の白鳥秀幸校長、教務部長の石脇淳先生、進路指導部長の木村武先生にお話をうかがった。

白鳥校長は本誌で5年間連載をお願いしていた時期もあり、ご存じの方も多かったろう。

### 西郷さんに惚れた創立者

敬愛学園高校は1953（昭和28）年3月に、千葉関東商業高等学校として創立された。創立者でもある初代校長は長戸路政司氏だ。東大法学部を卒業後、検事、弁護士を務めるが、思うところあって一念発起した。

昨年のNHK大河ドラマでも話題となった「西郷どん」の主人公として脚光が当たったのが西郷隆盛であるが、この西郷に惚れ込んだ創立者は、西郷の座右の銘であった「敬天愛人」を建学の精神とする学校を創ろうと考え、創立に至ったという（当初は1926（大正15）年に財団法人「関東中学校」を創立。その後、1966年には法人名を「千葉敬愛学園」と改称した）。

創立当初は商業・工業の学校だったが、1974年に普通科を設置し、2003（平成15）年より普通科のみの高校となった。

この「敬天愛人」は、学校内外のいろいろなところで目にすることができる。また、その解釈はさまざまであるが、白鳥校長自身は「謙虚に自分自身を見つめて、他人を心から尊重する。真のやさしさ」と捉え、学校内外で話をしているという。

同学校法人では、敬愛大学（4年制）、千葉敬愛短期大学（2年制）、同短大付属幼稚園、そして敬愛学園高等学校などを運営している。千葉敬愛高等学校とは系列校であるが、別の学校である。

### 「敬天愛人」によるカリキュラム・マネジメント

同校は現在、普通科高校となっており、大きく三つのコースに分かれる。「特別進学コース」「進学コースα」「進学コ

ースβ」の3コースである。

一つ目の特進コースでは、高い学力を保証し、主に首都圏国立大学を目指す。進学コースαでは、全人的な生徒を育成し、国立大や難関私立大学を目指す。進学コースβでは難関私立大学を目指す。

この3コースで取り組みが進められているが、3コースの基盤となるカリキュラム・マネジメントにも「敬天愛人」の精神が生かされている。すなわち、1年生は「敬」のステージで「身近な人をHAPPYに」、2年生は「天」で「自己を律し、目標へ向かう」、3年生は「愛」「人」のステージで「今生きている世の中を知る」「世の中の役に立つ人材となる」がそれぞれスローガンとなっている。

そして、最近、全コース共通で力を入れているのが「総合的な学習の時間」（総合的な探究の時間）だという。高大接続改革に代表される、昨今のカリキュラム改革の流れを捉え、「探究」に力を入れた